

ミカン生育情報

千葉県
平成 29 年 10 月号

平成 29 年 9 月の気象

平成 29 年 9 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 1 及び第 2 半旬を除く 4 半旬で平年より高かった。月平均気温は 22.5℃で、平年より 0.2℃、前年より 1.5℃低かった。

降水量は、第 1、第 4 及び第 6 半旬は平年を上回り、第 2、第 3 及び第 5 半旬は平年を下回った。月合計は 282mm で、平年の 112%、前年の 118%であった。

日照時間は、第 1 及び第 2 半旬を除く 4 半旬で平年並みか上回った。月合計は 134 時間で平年の 92%、前年の 129%であった。

台風 18 号が 9 月 17 日に鹿児島県、高知県、兵庫県に上陸し、18 日には北海道に上陸したが、本県への直接の被害はなかった。

表 1 平成 29 年 9 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	21.0	24.9	25.9	28	26	15	9	30	37
2	23.6	24.2	25.8	16	45	11	26	28	30
3	24.3	23.5	22.8	12	30	63	26	25	1
4	22.9	22.4	23.3	80	41	82	23	23	7
5	21.6	21.4	21.9	40	50	67	24	21	7
6	21.5	20.4	24.4	108	59	2	26	20	21
平均/計	22.5	22.7	24.0	282	251	239	134	145	104

果実及び樹の生育

10 月 2 日時点での南房総市内 2 園地と暖地園研の果実の生育状況を表 2 に示した。横径、縦径の平均値は、早生温州ではそれぞれ 5.9 cm、4.8 cm で、普通温州ではそれぞれ 6.4 cm、4.7 cm、川野夏柑は横径が 8.3cm、縦径が 6.7 cm であり、いずれも平年並みである。これまでの肥大状況を表 3 に示した。調査日間の肥大量は減少しており、肥大は落ち着いてきている。9 月 1 日から 10 月 2 日までの日肥大量は、平年よりも少ない地点が多かった。前年との比較では、前年よりも日肥大量の多い地点が多かった。

暖地園研内の「日南 1 号」の果実品質を表 4 に示した。果実品質を調査した果実では浮皮果の発生やカメムシ被害果は無かった。前年よりも酸度が高いため、各園において収穫時期の判断には注意をする。

暖地園研内の極早生温州は 9 月下旬から着色が始まった。昨年との調査結果と比較すると、着色の始まりがやや遅い。早生温州でも果実の緑色が抜け始めた樹がある。

生理障害、病害虫の発生（暖地園芸研究所）

生理障害では、9月前半は温州ミカン及び一部中晩柑で裂果が散見された。

暖地園研への果樹カメムシ類の飛来は9月に入り増加した。極早生温州ではカメムシの加害によると思われる異常着色が見られた。後期感染した黒点病により緑色が残っている果実も見られた。害虫の加害痕から腐敗している果実も見られた。

表2 果実の生育*1（平成29年10月2日）

No.	種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
			値	(比数)	値	(比数)
1	興津早生	三 芳	5.8	(97)	4.8	(99)
2		千 倉	5.6	(95)	4.6	(97)
3		暖地園研	6.2	(105)	5.0	(103)
4	大津4号	三 芳	6.6	(107)	5.0	(105)
5		千 倉	6.6	(103)	4.7	(100)
6		暖地園研	6.5	(102)	4.5	(96)
7	青島温州	三 芳	6.1	(99)	4.7	(99)
8		千 倉	6.0	(98)	4.6	(97)
9		暖地園研	6.4	(103)	4.7	(99)
10	川野夏橙	暖地園研	8.3	(103)	6.7	(100)
11	日南1号	暖地園研	7.1	(110) *3	5.3	(110) *3
	平均*2	早生温州	5.9	(99)	4.8	(100)
		普通温州	6.4	(102)	4.7	(99)

() の数字は平年値（平成9～28年の平均）を100とした比数 ※日南1号は2015年から調査

*1 各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、落果により調査果実を変更した樹がある

*2 早生温州：No.1～3の平均、普通温州：No.4～9の平均 *3 「日南1号」は前年の値を100とした比数

表3 7～9月調査の横径、縦径及び果形指数の推移

No.	品種	地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数※		
			8/1	9/1	10/2	8/1	9/1	10/2	8/1	9/1	10/2
1	興津早生	三芳村	3.9	4.8	5.8	3.7	4.3	4.8	105	112	120
2		千倉町	3.9	4.9	5.6	3.5	4.2	4.6	110	115	121
3		暖地	4.0	5.2	6.2	3.7	4.5	5.0	109	115	124
4	大津4号	三芳村	3.8	5.3	6.6	3.2	4.3	5.0	117	125	134
5		千倉町	3.8	5.4	6.6	3.2	4.2	4.7	120	128	141
6		暖地	3.8	5.3	6.5	3.1	4.1	4.5	123	130	144
7	青島温州	三芳村	3.8	4.9	6.1	3.3	4.2	4.7	114	119	129
8		千倉町	3.8	5.0	6.0	3.3	4.1	4.6	115	121	132
9		暖地	3.8	5.2	6.4	3.2	4.1	4.7	120	126	138
10	川野夏橙	暖地	5.0	6.8	8.3	4.6	5.9	6.7	109	116	123
11	日南1号	暖地	4.7	6.0	7.1	4.1	4.9	5.3	115	122	133

※果形指数は横径÷縦径×100の値、大きいほどへん平な形

表4. 極早生温州「日南1号」の果実品質（平成28年10月3日）

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比* ¹		果肉歩合%	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
暖地園研	3.0	3.6	8.3	8.4	1.35	0.92	6.2	9.2	84.8	82.6

* 1 甘味比＝糖度／酸度

9～10月の栽培管理

樹上選果 収穫直前まで園地を見回り、大玉果、小玉果、傷果、病虫害被害果などの商品性が劣る果実を摘果して、運搬や収穫後の選果の労力を少なくする。

裂果した果実及び腐敗した果実は、病気の発生源になるため早急に取り除く。

夏秋梢の除去 今年着果量が少なかった樹で夏秋梢が多く発生している場合には、特に強い枝を9月下旬以降に間引き剪定する。夏秋梢の除去はかいよう病の防除にもつながるため、栽培に影響の出ない程度に適宜剪定する。ただし品種や系統によっては夏秋梢の除去が来年の着花に影響を及ぼす可能性があるため、事前に着花習性を調べてから行う。

早生温州の収穫 着色が良好な果実から減酸を確認し収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫後の腐敗の要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫果実の果梗枝が長い場合は切り落とし、他の果実を傷つけないようにする。また、果実を扱う時は手袋をする。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。果実をコンテナに詰め込み過ぎると下段の果実が傷みやすく、貯蔵・流通中の腐敗果実発生の原因となるため、絶対に詰め込み過ぎない。

秋肥 樹勢の回復、耐寒性の向上及び翌年の花芽分化の促進を図るため、秋肥を施用する。施肥時期が早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、遅くなると低温になるため吸収が悪くなる。また、乾燥や着果負担の影響で樹勢が落ちた樹は、収穫後直ちに窒素主体の液肥を葉面散布して樹勢の回復を図る。

病虫害の防除 10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。同じ系統の成分を含む薬剤の連続使用は、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。褐色腐敗病の常発園や発生が心配される場合は、予防的な薬剤散布を行う。ミカンハダニ・ミカンサビダニや果樹カメムシ類は発生に応じて防除を行う。

収穫時期が近付いているため、農薬の使用基準にある収穫前日数と使用回数に注意し、農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>